

旧第4通学区の高校の将来像について 意見・提案書（素案）

2021年（令和3年） 月 日
旧第4通学区（長野市南部 千曲市 坂城町）
高校の将来像を考える地域の協議会

【目次】

はじめに

第Ⅰ章 旧第4通学区の高校の現状

- 1 「第1期長野県高等学校再編計画」検討時の状況
- 2 各公立高校における在籍生徒数及び学級数
- 3 各公立高校の教育活動の現状（「3つの方針」「グランドデザイン」）

第Ⅱ章 旧第4通学区中学校卒業生の進学状況と周辺通学区との関係

- 1 旧第4通学区の中学校卒業生数の推計
- 2 旧第4通学区と周辺通学区との高校進学に伴う流出入
- 3 旧第4通学区から県内私立高校および県外高校等への進学状況

第Ⅲ章 子どもたちの夢を実現する学び

- 1 「高校改革 ～夢に挑戦する学び～ 実施方針」旧第4通学区の再編計画の方向
- 2 旧第4通学区「高校の将来像を考える地域の協議会」での協議のポイント
 - (1) 再編を視野に入れた学びの場の整備の必要性
 - (2) 都市部存立普通校の改革の必要性
 - (3) 魅力ある学校づくりと総合技術高校の設置による専門教育の維持充実
 - (4) 中山間地存立校の学び
 - (5) 多様な生徒のための多様な学びの必要性と多部制・単位制高校の設置
 - (6) 総合学科高校の学び
 - (7) 私学との関係
 - (8) 教育条件整備についての要望

おわりに

<資料>

- ・旧第4通学区「高校の将来像を考える地域の協議会」設置要綱
- ・旧第4通学区「高校の将来像を考える地域の協議会」検討経過
- ・旧第4通学区「高校の将来像を考える地域の協議会」委員名簿

はじめに

旧第4通学区は、長野市南部から千曲市、坂城町を結ぶ千曲川流域の地域からなり、7校の公立高校が、地域と密接に繋がり特色ある学びを展開してきました。旧第4通学区の特色は、比較的恵まれた交通網を利用して周辺通学区から生徒が集まる一方、多様な学びを求めて多くの生徒が他の通学区の高校へ進学していることがあげられます。また、東北信地域の私立高校や長野工業高等専門学校に進学する生徒も多く、地域の子どもたちにとって魅力ある学びの場の整備を考える上では、北信地域全体や隣接する旧第5通学区との関係性を十分考慮した広い視点での検討が必要です。

長野県の人口は、2000年の221万5千人をピークに減少に転じ、2020年は203万人あまりです。また、2020年度の合計特殊出生率は1.57で少子化が進行する一方、県全体に占める65歳以上の比率は31.9%と、少子高齢化は急速に進展しています。今後は人口減少を想定した社会や地域づくり、また生活の在り方を模索しなければならない時代となっています。さらに、2019年10月の台風19号は、災害救助法適用自治体が過去最大となりましたが、東北信地域にも想定を超える甚大な被害をもたらしました。新型コロナウイルス感染症のパンデミックによる生命への脅威は、地方で暮らす私たちの生活様式や働き方、経済活動、教育の在り方なども根本的に再構築せざるを得ない状況を生み出しました。

こうした激動の時代にあって、故郷や世界の未来を創造し、協働して物ごとにあたり前進させていくことのできる人材を育むためには、地域の教育を充実させる必要があります。旧第4通学区「高校の将来像を考える地域の協議会」では、地域の豊かな学びの資源を最大限に活用し、未来を担う全ての子どもたちにとって有意義な魅力ある学びの場が整備されることを願い、各分野から選出された委員により貴重な意見交換を実施してまいりました。本書において、地域の未来のために必要な学びの場と今後の高校配置に関する意見提案をいたします。

第 I 章 旧第 4 通学区の高校の現状

旧第 4 通学区における公立高校の第 1 期長野県高等学校再編計画での再編統合の状況や、各公立高校における在籍生徒数及び学級数の状況、各公立高校の教育活動の取組について以下に示します。

1 「第 1 期長野県高等学校再編計画」検討時の状況

旧第 4 通学区では 1990 年（平成 2 年）のピーク時に 3,369 人であった中学校卒業生数が、2008 年（平成 20 年）には 2,070 人まで減少し、全体的に学校規模の縮小が進んでいる状況にありました。また、この通学区の中学から毎年 8 学級程度の中学生が旧第 3 通学区の公立高校へ入学し、旧第 3 通学区の中学校からも 5 学級程度がこの地区の公立高校に入学していました。

これらの状況を考慮して、旧第 2 通学区での再編計画や旧第 3 通学区の長野市内校の学校規模の状況を見ながら、併行して高校再編を検討する必要があるとし、その際には専門学科を含む再編統合や新しいタイプの学校づくり等の魅力ある高校づくりを検討していくとしていました。

「第 1 期長野県高等学校再編計画」における再編統合等の状況

次のとおり併設型中高一貫校を設置しました。

実施年度	再 編 統 合 等 の 状 況	
2012 年 (平成 24 年)	屋代（普通科・理数科）	（東北信の併設型中高一貫校） + 屋代高校附属中学校

2 各公立高校における在籍生徒数及び学級数

(1) 全日制課程

(2020 年（令和 2 年）5 月 1 日現在 学校要覧より)

学校名	学科	在籍生徒数	全日制学級数	1 学年在籍数	2 学年在籍数	3 学年在籍数
長野南高校	普通科	589	15	202	194	193
篠ノ井高校	普通科	717	18	242	237	238
更級農業高校	農業科	453	12	163	148	142
松代高校	普通科	224	6	71	76	77
	商業科	265	8	75	101	89
屋代高校	普通科	717	18	243	240	234
	理数科	119	3	40	40	39
屋代南高校	普通科	218	+9	73	71	74
	家庭科	115	3	40	38	37
坂城高校	普通科	226	+9	73	72	81

(2) 定時制課程

学校名	学科	在籍生徒数	1 学年在籍数	2 学年在籍数	3 学年在籍数	4 学年在籍数
篠ノ井高校	普通科	36	13	9	3	11

3 各公立高校の教育活動の現状（「3つの方針」「グランドデザイン」）

旧第4通学区の全日制課程は、4校（長野南高校、篠ノ井高校、屋代高校、屋代南高校）の都市部存立普通校と2校（更級農業高校、松代高校）の都市部存立専門校、1校（坂城高校）の中山間地存立校があり、定時制課程は1校（篠ノ井高校）に設置されています。

地域協議会では、各校、各課程の「3つの方針」と「グランドデザイン」が示され、各学校が目指す学校像や探究的な学び¹の実践、信州学²への取組み、また地域との連携状況等が示されました。

*1「探究的な学び」（「学びの改革 基本構想」（長野県教育委員会）より）

日常生活や社会に目を向けた時に湧き上がってくる疑問や関心に基づいて、自ら課題を見つけ、そこにある具体的な問題について情報を収集し、その情報を整理・分析したり、知識や技能と結び付けたり、考えを出し合ったりしながら問題の解決に取組み、明らかになった考えや意見などをまとめ、表現し、またそこから新たな課題を見つけていくという学習のプロセス。

*2「信州学」（「高校改革 ～夢に挑戦する学び～ 実施方針」（長野県教育委員会）より）

「信州について学ぶ」だけでなく、「信州において」「信州から学ぶ」ことを包含した「探究的な学び」。新しい学校づくりの中でも「探究的な学び」の中心的なテーマとして位置付けていくことが望まれる。

○長野南高校

「意欲」「創造」「誠実」を開校以来一貫した校是とする。自信をもって自らの道を歩む生徒、他者への理解と協調性をもって社会の一員として活躍できる生徒、社会人として信頼される資質能力をもつ生徒を育てたい生徒像に据え、地域社会を支える人材の育成を目指しています。「主体的な学びの場」での探究活動の深化と発信力増強、「他者との交流の場」での地域参加と協働的活動、「キャリア教育の場」では積極的に ICT 機器を活用し、行事の充実を図る教育活動を実践しています。

○篠ノ井高校＜全日制課程＞

自分の言葉で志を語り、夢を形にする生徒が目指す生徒像です。コミュニケーション能力、ICT 活用力で「変化に対応」する力、探究やフィールドワーク、国際交流で「課題を解決」する力、地域・大学等との協働により「提案し発信」する力、これら3つの力を伸ばすことを目指しています。「総合的な探究の時間」を中心に、全ての教科で主体的、対話的で深い学びを提案し多様な進路に対応します。

○篠ノ井高校＜定時制課程＞

「自分らしくいられるために」をテーマに、諦めないで取組む力、自主的に社会参加できる力、人とコミュニケーションをとれる力、他者と協働して行動する力の育成を目指しています。その実現に向け、多様な生徒に対し、学び直しから自分に自信をつけ、進学、就職に対応する4年間の教育活動を準備し、少人数の授業や ICT 機器の活用を通じて一人

ひとりが課題を克服することを大切にしています。また、学校生活やアルバイトを通してコミュニケーション能力や社会性を身に付けること、行事や総合的な探究の時間等を通して、他者から学び自分を見つけることを大切にしています。

○更級農業高校

農業分野（食料・環境・生命など）の将来のスペシャリストとして必要な知識や技術の習得だけでなく、地域産業の持続的発展を担う「地域の核」となるために必要な資質・能力を育成することを目標としています。さらに農業教育を通じた人格形成を基本として創造力とリーダーシップ、豊かな人間性と倫理観を備え、社会貢献への使命感を持った人材を育成することを目指しています。

○松代高校

松代藩の家老、恩田杳が詠んだ歌で、「己の誠の心を己に問い、自分自身見つめ直す」という「克己心」につながる精神が松代高校の教育の原点です。普通科、商業科ともに多彩な選択科目や総合的な探究の時間、地域との連携を通じて、地域や社会の担い手として必要な基礎学力を、自らを律し克己の精神を、学校生活を通じて忍耐力・責任感・使命感を、また他者に対する思いやりと協調性を持ちながら自己表現ができるコミュニケーション力を身につけることを目指しています。

○屋代高校

屋代高等学校・附属中学校は、中高一貫校、理数科設置校、SSH 指定校として、多様な仲間と互いに学び合い高め合うことを目指しています。「質実剛健」「文武両道」の校是のもと、意志力や人間力のある「自律的に生きる人」を、協働力や貢献力のある「他者の立場に立ち、公正で多角的な視点で物事を捉える人」を、教養力や思考力のある「現代の諸課題に向き合い、最適解を求めようとする人」を、創造力や実行力のある「新しい自己や新しい社会を開拓できる人」を育てることを目指しています。

○屋代南高校

屋代南高等学校には普通科とライフデザイン科があり「地域づくりの中心となって働く若い人材を育成」することを目標としています。その為に豊かな自然環境、地域産業を有し、千曲川の交通・行政の中心地にある地元と積極的に関わりを持ち、「疑問を持ち、考え抜く力」「多様な人々とともに、目標に向けて協力する力」「一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力」の3つの力を身につけさせることを目指しています。地域から信頼される開かれた学校づくりの中で、特にライフデザイン科は確かな知識と技術を習得し作品発表会など地域と密接に関わっています。

○坂城高校

開校以来 110 年以上にわたり地元を支える多くの人材を輩出し、今後は「自らライフキャリアをデザインし、地域社会に主体的に関わり貢献できる人」を育む学校づくりを目指しています。この目標に向けて、坂城学と教科学習を関連付ける教科横断・地域連携型探究学習の実現、ICT 機器を活用し個別学習支援システム等の導入による学びの質の向上、全職員（チームさかき）による相談室を中心とした生徒支援体制の構築、生徒一人ひとりの学びを支え成長を促す評価の実現を実践しています。

第Ⅱ章 旧第4通学区中学校卒業生の進学状況と周辺通学区との関係

旧第4通学区「高校の将来像を考える地域の協議会」では、中学校卒業生数の将来予測と、旧第4通学区の中学校卒業生の高校進学状況について周辺通学区との関係を含めて確認しました。

特に、旧第3通学区、旧第5通学区との関係性に関する質問や意見が多く、協議会では旧第4通学区の中学生の動向を令和2年度と過去とを比較しつつ、詳細を分析して意見交換を行った内容も含め以下に示します。

1 旧第4通学区の中学校卒業生数の推計

(1) 旧第4通学区の中学校卒業生数の現状及び予測

(単位：人)

卒業年度	2017	2020	2023	2026	2029	2032	2035	2035/2017
卒業生数	1,990	1,883	1,925	1,710	1,549	1,504	1,261	63.0%
2017年差	-	-107	-65	-280	-441	-486	-729	-

※2028年までは、2019年度学校基本調査、2029年以降は、2020年度長野県人口異動調査による数
旧第4通学区中学校卒業生数の推計によると、実施方針で示された2017年との比較で、2030年には約79%、2035年には約63%まで減少し、長野県全体の推計とほぼ同じ減少率となる予測です。

2 旧第4通学区と周辺通学区との高校進学に伴う流出入

(1) 旧第4通学区の中学校卒業生の高校進学状況

内 訳	人 数	割 合
旧第4通学区の公立高校へ進学	1,014人	53%
上記以外の高校へ進学	895人	47%
・旧第3通学区の公立高校へ進学	384人	---
・旧第5通学区の公立高校へ進学	145人	---
・県内私立高校へ進学	316人	---
・その他(県外含む)	50人	---

※2015年度～2017年度の3年間の平均値(全日制)

(2) 旧第4通学区の高校の入学状況

内 訳	人 数	割 合
旧第4通学区の中学校から入学	1,014人	77%
上記以外の中学から入学	311人	23%
・旧第3通学区の中学校から入学	225人	---
・旧第5通学区の中学校から入学	60人	---
・その他(県外含む)	26人	---

※2015年度～2017年度の3年間の平均値(全日制)

(3) 令和2年度 高校1年生の旧第4通学区と周辺通学区との流出入（全日制課程）

旧	地 域	旧1通	旧2通	旧3通	旧5通	旧6通
4 通	(A)旧第4通への流入	0人	6人	193人	42人	3人
	(B)旧第4通からの流出	1人	18人	322人	149人	6人
	(A)流入－(B)流出	－1人	－12人	－129人	－107人	－3人

令和2年度、公立高校全日制課程の1年生に入学した生徒について、旧第4通学区及び周辺通学区との関係を見ると、旧第4通学区は流出の傾向が強く、特に旧第3通学区（129人）、旧第5通学区（107人）への流出が大きい状況となっています。協議会では旧第4通学区の中学卒業生の動向は、例年流出傾向にあり詳細な資料をもとに意見交換を行いました。

(4) 令和2年度 旧第4通学区出身高校1年生の隣接通学区への入学者数（全日制課程）

学 科	旧3通 公立校 入学者数	旧第4通出身入学者数		校 種	旧5通 公立校 入学者数	旧第4通出身入学者数	
		北部地域	南部地域			北部地域	南部地域
普通科	1,071人	155人	17人	普通科	894人	15人	94人
専門科	480人	81人	42人	専門科	279人	3人	28人
総合学科	160人	7人	6人	総合学科	227人	0人	4人
特色学科	40人	11人	3人	特色学科	41人	0人	5人

※ 北部地域は旧第4通学区の長野市地域 南部地域は旧第4通学区の千曲市坂城町地域

令和2年度、旧第3通学区と旧第5通学区の公立高校に入学した各校種ごとの全入学者数と旧第4通学区出身入学者数の状況をみると、旧第4通学区の北部地域からは旧第3通学区の普通科、専門科、特色学科のある学校へ、南部地域からは旧第3通学区の専門科と旧第5通学区の普通科、専門科への入学者が多くなっています。これは、前述2(1)(2)の2015年度～2017年度、3年間の平均値と似た傾向となっています。

例年、旧第4通学区から多くの入学者がある旧第3通学区と旧第5通学区の各公立高校は、そのほとんどの学校が最寄り駅から比較的遠く、中学生は交通の便の良さを利用して多少遠くても学びたい学校を選んで進学している状況があることがわかりました。

協議会の意見交換の中では、長野市と上田市の間にあり交通の便に恵まれた旧第4通学区に、適正な学校規模を備えた魅力ある学びの場を、周辺通学区の高校配置も見ながら検討していく必要があるとの意見が多数を占めました。

(5) 令和2年度 高校1年生の旧第4通学区公立高校定時制課程への進学状況

旧	地 域	旧4通内	北信(旧4通以外)	北信以外の地域
4 通	(A)旧4通学区への流入	11人	0人	0人
	(B)旧4通学区からの流出		9人	3人
	(A)流入－(B)流出	—	－9人	－3人

令和2年度、旧第4通学区の公立高校定時制課程に入学した生徒数は11人で、全て旧第4通学区の出身者であり、12名が周辺通学区の夜間定時制高校に進学しています。

3 旧第4通学区から県内私立高校および県外高校等への進学状況

(1) 令和2年度 旧第4通学区から県内私立高校への進学状況

北信私立高校	東信私立高校	南信私立高校	中信私立高校	合計
197人	71人	4人	10人	282人

令和2年度、旧第4通学区から県内の私立高校へ進学した生徒は282人、学級数にして約7学級分にあたり、特に北信地域の私立高校に197人、東信地域に71人が進学しています。現在、令和5年度以降を見据えて県内の公立校と私立校の募集定員に関する新たな枠組みの検討が行われていますが、旧第4通学区にとっても影響は大きく、大きな課題の一つとなっています。

(2) 令和2年度 旧第4通学区から県外高校等への進学状況

令和2年度、旧第4通学区から県外高校へ進学した生徒は22人、また長野工業高等専門学校には27人の生徒が進学しました。

第三章 子どもたちの夢を実現する学び

1 「高校改革 ～夢に挑戦する学び～ 実施方針」旧第4通学区の再編計画の方向

- ・隣接通学区への進学希望にも応えつつ、地域の子どもの地域で育てる観点も大切にしながら、地域の中学生の期待に応える学びの場を整備していく必要がある。
- ・この地区の今後の少子化の進行を考えると、再編の実施を前提に地域の高校の将来像を考えていく必要がある。
- ・「第1期長野県高等学校再編計画」検討時も専門学科の再編統合が懸案となっていたが、専門学科の小規模化が想定される中で、専門教育の活力を維持充実させていく必要がある。
- ・これらの観点を踏まえると、長野市南部と千曲市に適性数を考慮しながら規模の大きさを活かした都市部存立普通校を配置するとともに、学びの場の保障の観点も踏まえながら中山間地存立校を配置していくことが考えられる。
- ・また、総合技術高校の設置等により専門教育の維持充実を検討していくことが考えられる。

2 旧第4通学区「高校の将来像を考える地域の協議会」での協議のポイント

旧第4通学区「高校の将来像を考える地域の協議会」では長野県教育委員会より提示された「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針」をベースに協議を行い、以下のとおりまとめました。

(1) 再編を視野に入れた学びの場の整備の必要性

旧第4通学区の中学校卒業生数の予測値をみると深刻な減少傾向にあります。旧第4通学区「高校の将来像を考える地域の協議会」では、平均学級数の減少予測から、旧第4通学区の再編統合はやむを得ないとの認識で一致しました。

協議会の中では、旧3通学区と旧第5通学区の特色ある規模の大きな都市部存立校や東北信地方の私立高校への流出、さらには長野工業高等専門学校や県外高校への進学状況も報告される中で、地元の子どもたちが遠距離通学をしなくとも、旧第4通学区内に中・高校生が魅力を感じる高校をつくる必要があるという意見が多く出されました。通学区内の中・高校生は、交通の便の良さを活かして、多様な学びの選択肢を求めて旧通学区を越えて移動する生徒もおり、高校再編にあたっては旧第4通学区だけでなく、北信地域全体や第5通学区も視野に入れた検討が必要だという意見が多く出されました。さらに交通の利便性を活かし、旧第3通学区や旧第5通学区に住む生徒から、また私立高校との併願を考えている生徒からも魅力を感じることでできる学校を、旧第4通学区につくる計画の検討を求める声が寄せられました。

なお、協議会の中では、地域の子どもの地域で育てるという観点から、学校間連携やオンライン授業の充実、少人数教育のメリットも活かしながら、現在の都市部存立校6校及び中山間地存立校1校の存続を願う声もありました。

(2) 都市部存立普通校の改革の必要性

文部科学省の指摘にもあるように、これからの学びの在り方の変化に伴い、普通科もまた変革が求められる時代となっています。柔軟な教育課程の編成や外部人材・専門的な人材の積極的な活用をしながら、問題解決型学習や探究的な学びへの転換を図り、自らの道を自ら切り拓くことができる子どもたちの育成、地域の資源を活かしたプロジェクトを構築して地域を活性化するような人材の育成が期待されます。今後、都市部存立普通校が各校で策定した3つの方針³に沿い、問題解決型学習を積極的に導入するとともに、地域課題探究等、地域と密接に関わった学びが進むことを期待します。

また、都市部存立普通校では、可能な限り教員が専門科目の指導ができ、規模の大きさを活かした学習活動や部活動、生徒会活動等を行える学びの場を維持するために普通科の再編が必要との意見が多く寄せられました。

なお、部活動については、学校の部活動指導員の配置や社会体育への移行等、従来の学校の内部人材に頼っていた課外活動の在り方について、県全体で見直しを検討しなければならないことも指摘されました。

*3 「3つの方針」(「高校改革 ～夢に挑戦する学び～ 実施方針」(長野県教育委員会)より)

すべての県立高校が新たな学びへ転換するために策定した「生徒育成方針」「教育課程編成・実施方針」「生徒募集方針」

(3) 魅力ある学校づくりと総合技術高校の設置による専門教育の維持充実

① 専門科の重要性

旧第4通学区には、3校に伝統ある専門科が設置されており、それぞれ地域と密着した魅力ある学びの場があります。しかし、旧第4通学区全体の中学卒業生数の減少に合わせ、専門科の小規模化が想定される中で、専門教育の活力を維持充実させていく必要がある点で一致しました。

② 総合技術高校の設置による専門教育の維持充実

○学びの仕組みと特色

- ・学科の枠を越えた学習を可能とする教育課程を編成する。
- ・各産業に共通する知識・技術や地域産業について全生徒が学習する科目を設置する。
- ・教科横断的な学習により各専門性を活かしながら協働して専門的学習を行う。

○成果と課題

- ・専門分野の生徒たちとの協働的な学びにより、幅広い職業観の醸成が期待できる。
- ・専門分野を学科横断的に結びつけることによる煩雑さをクリアする課題がある。

○東北信の総合技術高校設置状況

- ・旧第2通学区に須坂創成高校、旧第6通学区に佐久平総合技術高校が設置されている。

須坂創成高校には、旧第3通学区から50%を超える生徒が入学しており、課題探究や企業との連携により、農業・工業・商業の専門性を活かしながら、生徒は学科横断的に学ぶことができる特徴があることが報告され、協議会の中でも魅力のある学びであるという意見

が複数ありました。旧第3通学区から旧第5通学区にかけての地域には総合技術高校はなく、協議会では旧第4通学区に魅力ある学びの場として、一定規模の総合技術高校設置を要望していくことで一致しました。なお、委員からは、現在、旧第4通学区の専門校に設置されている学科の他に、これからの時代や地域のニーズに応えることのできる新たな学科の設置の必要性についての意見もあり、例えば、工業・福祉・看護・情報の学びなどを結びつけた、この地域にふさわしい総合技術高校のあり方を十分検討した上で、旧第4通学区への設置を要望します。

(4) 中山間地存立校の学び

「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針」では、中山間地存立校、地域キャンパスそれぞれに再編基準が定められており、在籍生徒数の減少から、大変厳しい状況であります。しかし、こうした中でも、協働的学習や少人数学習に取組み、地域の特性を活かしている学校もあります。旧第4通学区にも中山間地存立校が1校ありますが、少人数の学習環境の中でグループ学習を取り入れ、若い大学生がメンターとなって協働的学習並びに地域企業等との連携を進めるとともに、一人一台端末を用意してICTを駆使し、個別最適化された学びの実践をいち早く導入しています。こうした特色ある学びが他の学校にも広がっていくことを期待します。また、「再編・整備計画」の策定にあたっては、地域の実情も考慮して、中山間地の特色ある学びの拠点として維持していくことを要望します。

(5) 多様な生徒のための多様な学びの必要性和多部制・単位制高校の設置

○学びの仕組みと特色

- ・複数の部を設定し、生徒の生活・学習スタイルに合わせ所属を選択できる。
- ・自分の所属する部以外の授業を選択することで、3年間での卒業も可能。(三修制)
- ・学年の枠を取り払い高校卒業に必要な74単位以上の修得により卒業できるシステム。
- ・全ての科目が修得できなくても、修得した科目は認定され、単位に応じて学年が決まる。

○成果と課題

- ・生徒の多様なライフスタイルにフレキシブルに対応できる。
- ・学び直しや進学、就労など、生徒の多様なニーズに応える細やかな学習指導ができる。
- ・生徒の多様な学びに対応するため、カリキュラムが煩雑になる。

○北信地域の設置状況

- ・北信地域にはまだ設置されていない。

多部制・単位制高校は、授業を受けられる時間帯を生徒が自ら選択でき、生徒自身の生活や学習スタイルに合わせて学ぶことができます。また、生徒の幅広いニーズに応えるため、学習指導や相談・支援体制の充実、人間関係やコミュニケーション能力育成等を外部機関等と連携しながら進めることのできる学びの場です。多様な生徒に対して多様な学びの場を求める観点から、旧第2通学区、旧第3通学区の協議会から北信地域への設置要

望が出されました。旧第4通学区の協議会でも多部制・単位制高校設置の要望は強く、北信地域全体の高校生の交通の利便性等にも配慮しながら、速やかに多部制・単位制高校を設置することを望みます。設置場所については、交通の便の良い旧第4通学区への設置を強く求める意見もありました。

また、合わせて多様な生徒の多様な学びを保障する観点から、夜間定時制の適正な配置についても要望いたします。

(6) 総合学科高校の学び

○学びの仕組みと特色

- ・将来の職業選択を視野に入れ、進路への自覚を深めるキャリア教育⁴を重視する。
- ・進路希望や興味関心に応じた一人ひとりの時間割で学習する。

○成果と課題

- ・目的意識をもった進路選択や、学びの楽しさや成就感の獲得が期待できる。
- ・キャリア教育の充実や教育課程・単位認定等の弾力化が必要である。

○北信地域の設置状況

- ・中野立志館高校と市立長野高校の2校がある。

生徒は、普通科と職業科に続く第3の学科として、探究的な学びを通じて地域の様々な課題やSDGs⁵の活動等に取り組んでいます。自分の興味や進路希望に合わせて系列を選び、将来の職業選択も視野に様々なキャリア教育に協働的に取り組んでおり、普通科の再編を進める過程において、地域課題探究科等、新たな学科を再編する状況と並行しながら、また、普職のバランスも考慮しながら検討する必要があります。

*4 「キャリア教育」（「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針」（長野県教育委員会）より）

一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

*5 「SDGs」（「一般社団法人 日本SDGs協会」HPより）

2015年9月の国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された国際目標。「地球上の誰一人として取り残さない」ことを理念とし、人類、地球およびそれらの繁栄のために設定された行動計画であり、17のゴールと169のターゲットで構成されている。

(7) 私学との関係

旧第3通学区の長野清泉女学院高校、長野女子高校、文化学園長野高校、長野日本大学高校、旧第4通学区の長野俊英高校、旧第5通学区の上田西高校を中心に、旧第4通学区からは令和2年度、280人（7学級分）を超える生徒が進学しています。近年、公私間の経済的負担の格差が縮小する中で、私学への進学希望者は年々増加しており、急速に少子化が進む中で、地域の多様な子どもたちに必要な学びの場を、適切な規模、環境で提供するためには、私学との連携と情報共有は必要不可欠となります。全県の公私連絡協議会での調整につづ

き、北信地域の公私連絡協議会の実施と調整を強く望みます。

(8) 教育条件整備についての要望

旧第4通学区の協議会では、地域の未来を創造する子どもたちにとって魅力ある学びの場を整備するために、各校の特色を担う専門性の高い教職員の確保や研修の機会保障、また施設や設備の充実などを願う声が上がりました。高校改革において子どもたちを取り巻く教育条件整備が確実に進展していくことを期待します。

おわりに

旧第4通学区「高校の将来像を考える地域の協議会」は、通学区内高校が生徒のために努力しているさまざまな取組みや、総合技術高校、多部制・単位制高校、総合学科高校などの新しい高校について学び、少子化の中で将来を託す子どもたちのための、学びの場のあり方を検討してきました。

きびしい少子化の現実を見据えながら、全ての子が、高校教育の場を通して自己実現し、未来を拓いていけるように学びの場を創ることが私たちの願いです。そのために高校の再編は避けて通れないことであり、適正規模が必要なことや、総合技術高校という複数の学科を配置した高校や、さまざまな成育歴をもつ子どもたちを包摂できる柔軟性を持った高校をつくることが共通理解となり、意見・提案書としてまとまりました。

子どもたちが、新しい学びの場で勉学や部活動や生徒会活動などを通して大いに自己伸長し、未来を担う人材として育ってくれることを期待いたします。

旧第4通学区「高校の将来像を考える地域の協議会」設置要綱

2019. 8. 28

(設置目的)

第1条 この協議会は、長野県立高等学校旧第4通学区内の将来を見据えた高校の学びのあり方について、長野県教育委員会（以下「県教委という」）に対して意見及び提案をすることを目的として設置する。意見、および提案については「高校改革 ～夢に挑戦する学び～ 実施方針」に基づくこととする。

(委員)

第2条 この協議会の委員は、市町村長及び市町村教育長、産業界から選出する者、その他地域の実情に応じた者のうちから20名以上を選出する。委員が欠けたとき、協議会座長は速やかに後任を選出する。

(任期)

第3条 この協議会の委員の任期は、協議会の目的を終えるまでとする。

(会議)

第4条 この協議会に座長1名、副座長1名を置き、委員が互選する。

- 2 座長は、会務を総理する。
- 3 副座長は、座長を補佐し、座長に事故あるときはその職務を代理する。
- 4 会議は公開とする。ただし、座長の判断により一部非公開とすることができる。

(召集)

第5条 この協議会は座長が召集する。

(事務局)

第6条 この協議会の事務局は、長野市教育委員会、千曲市教育委員会、坂城町教育委員会、と県教委との共同事務局とし、その役割分担は次の各号のとおりとする。

- (1) 市町教委 日程調整及び会議の運営など協議会の運営
- (2) 県教委 資料の収集・作成など協議会運営の支援

(補足)

第7条 この要綱に定めるもののほか、この協議会の運営に関し必要な事項は、座長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和元年8月28日から施行する。

旧第4通学区「高校の将来像を考える地域の協議会」検討経過

◆第1回協議会

<令和元年8月28日(水) 15:00~17:00 長野市第1庁舎7F 第1・第2委員会室>

- ・座長、副座長選出
- ・高校改革～夢に挑戦する学び～及び実施方針の説明
- ・旧第4通学区の状況及び実施方針
- ・意見交換

◆第2回協議会

<令和2年2月19日(水) 15:00~16:30 長野市教育センター3F 会議室>

【テーマ】旧第4通学区の課題と学びの改革

- ・意見交換 ①旧第4通学区の課題
②学びの改革の方向性について
- 次回への課題：周辺通学区との関係、再編の必要性、学校の規模等

◆第3回協議会

<令和2年7月2日(木) 10:00~12:00 長野市第1庁舎7F 第1・第2委員会室>

【テーマ】旧第4通学区の現状と課題（前回までの振り返りを含む）

- ・意見交換 ①旧第4通学区の現状と課題（各校の「3つの方針」と「グランドデザイン」）
②多様な学びの場（総合技術、多部制・単位制、総合学科等）
- 次回への課題：隣接通学区との関係、地域に必要な学び

◆第4回協議会

<令和2年12月24日(金) 9:55~12:07 長野市庁舎7F 第1・第2委員会室>

【テーマ】周辺通学区との関係性と魅力ある学び

- ・意見交換 ①周辺通学区との関係
②地域に魅力ある学び（総合技術、多部制・単位制、総合学科等）
- 次回への課題：再編を視野に入れた魅力ある学びの場の整備

◆第5回協議会

<令和3年2月26日(金) 15:00~17:10 長野市教育センター3F 会議室>

【テーマ】総合技術高校と普通科改革 他

- ・意見交換 ①総合技術高校の学び
②普通科の学び
③中山間地存立校の学び
④多部制・単位制高校の学び
- 次回への課題：協議会の意見集約による意見提案書（素案）の審議

◆第6回協議会

<令和3年5月11日(火) 15:00~16:50 長野市 ふれあい福祉センター 5F ホール>

【テーマ】意見提案書(素案)の審議と意見募集

- ・意見交換 ①意見提案書(素案)の審議
- ②意見募集の方法について

○次回への課題:意見提案書(素案)の継続審議

◆第7回協議会

<令和3年5月31日(月) 15:00~16:30 長野市庁舎 5F 庁議室>

【テーマ】意見提案書(素案)の審議と意見募集

- ・意見交換 ①意見提案書(素案)の審議
- ②意見募集の方法について

○次回への課題:意見募集結果の共有と意見提案書(素案)の確定

◆協議会事務局による意見提案書(素案)の部分修正案作成(第7回協議会からの要請)

<令和3年6月1日(火)~令和3年6月9日(水)>

◆協議会委員による意見提案書(素案)の書面確認

<令和3年6月10日(木)~令和3年6月15日(火)>

《住民意見募集》

<令和3年6月21日(月)~令和3年7月20日(火)>

【対象地域】長野市、千曲市、坂城町

- 【対象者】○小学校の児童・保護者・教職員、中学校の生徒・保護者・教職員
- 旧第4通学区内高等学校、生徒・保護者・教職員
 - 一般住民

◆第8回協議会 予定

<令和3年7月29日(木) 15:00~ : 長野市庁舎 7F 委員会室>

【テーマ】意見集約結果の共有と意見提案書の確定

- ・意見交換 ①意見提案書(素案)の確認
- ②意見募集結果の共有
- ③意見提案書の確定

旧第4通学区「高校の将来像を考える地域の協議会」委員名簿

氏名	区分	役職等	備考
加藤 久雄	市町村長	長野市長	
岡田 昭雄	市町村長	千曲市長	～令和2年11月10日
小川 修一	市町村長	千曲市長	令和2年11月11日～
山村 弘	市町村長	坂城町長	
近藤 守	市町村教育長	長野市教育長	～令和3年5月10日
丸山 陽一	市町村教育長	長野市教育長	令和3年5月11日～
赤地 憲一	市町村教育長	千曲市教育長	～令和2年2月18日
小松 信美	市町村教育長	千曲市教育長	令和2年2月19日～
清水 守	市町村教育長	坂城町教育長	
長橋 俊哉	産業界	長野商工会議所篠ノ井支部 評議員	
中山 正昭	産業界	千曲市商工会議所 参与	
石黒 眞一	産業界	長野市商工会 事務局長	～令和3年5月10日
浅岡 龍光	産業界	長野市商工会 事務局長	令和3年5月11日～
高村 秋光	産業界	戸倉上山田商工会 会長	
関戸 啓司	産業界	坂城町商工会 会長	
滝沢 秀治	産業界	滝沢食品株式会社 代表取締役社長	
藤本 光世	その他地域の実情に応じた者	円福寺愛育園 園長	座長
福田 典子	その他地域の実情に応じた者	信州大学教育学部 准教授	副座長
宮後 睦雄	その他地域の実情に応じた者	テクノハート坂城協同組合 理事長	
鶴田 明久	その他地域の実情に応じた者	JAグリーン長野 生活部長	～令和3年5月10日
伊藤 聡彦	その他地域の実情に応じた者	JAグリーン長野 生活部長	令和3年5月11日～
岡田 康	その他地域の実情に応じた者	JAながの千曲地区担当理事	
岩田 学	その他地域の実情に応じた者	旧第4通学区高等学校校長会 会長	～令和2年7月1日
高澤 邦明	その他地域の実情に応じた者	旧第4通学区高等学校校長会 会長	令和2年7月2日～
山根 義夫	その他地域の実情に応じた者	更埴中学校長会 会長	～令和2年7月1日
坂田 和弥	その他地域の実情に応じた者	更埴中学校長会 会長	令和2年7月2日～
中島 明彦	その他地域の実情に応じた者	長野市PTA連合会 会長	
寺澤 孝一	その他地域の実情に応じた者	更埴PTA連合会 会長	～令和2年7月1日
柳嶋 幸孝	その他地域の実情に応じた者	更埴PTA連合会 会長	令和2年7月2日～令和3年5月10日
矢島 広幸	その他地域の実情に応じた者	更埴PTA連合会 会長	令和3年5月11日～
林 雅孝	その他地域の実情に応じた者	長野県長野地域振興局 局長	～令和2年7月1日
吉沢 正	その他地域の実情に応じた者	長野県長野地域振興局 局長	令和2年7月2日～

事務局

氏名	役職等	備考
永井 克昌	長野市教育委員会 教育次長	～令和3年3月31日
勝野 学	長野市教育委員会 教育次長	令和3年4月1日～
石川 順三	長野市教育委員会事務局学校教育課 主任指導主事	～令和3年3月31日
内川 源弘	長野市教育委員会事務局学校教育課 主任指導主事	令和3年4月1日～
滝沢 裕一	千曲市教育委員会事務局 教育部長	～令和3年3月31日
島田 栄一	千曲市教育委員会事務局 教育部長	令和3年4月1日～
米澤 修一	千曲市教育委員会事務局 教育指導幹	～令和元年12月31日
中村 公雄	千曲市教育委員会事務局 教育指導幹	令和2年1月14日～
堀内 弘達	坂城町教育委員会事務局 教育文化課長	
宮坂 正	坂城町教育委員会事務局 教育コーディネーター	令和2年4月1日～
駒瀬 隆	長野県教育委員会事務局高校教育課 教育主幹兼高校改革推進係長	
上原 浩子	長野県教育委員会事務局高校教育課 主幹指導主事	令和2年4月1日～令和3年3月31日
上原 一善	長野県教育委員会事務局高校教育課 主幹指導主事	令和3年4月1日～
平林 哲郎	長野県教育委員会事務局高校教育課 主任指導主事	～令和2年3月31日
柳沢 敬	長野県教育委員会事務局高校教育課 主任指導主事	令和2年4月1日～